



ルーム・トゥ・リード

2010年度 アニュアル・レポート

世界を変える1つのビジョン。
影響を与え続けた10年間

(でも、変化はまだ始まったばかりなのです)

1つの夢



私たちの夢は、世界に広がっています

それは1998年にジョン・ウッドがあるネパールの学校を訪れたことから始まりました。その学校の図書室の棚には、児童書が1冊もなかったのです。この出来事がきっかけとなり、すべての子どもたちがどこで生まれたかに関係なく教育を受けられるようにすることがジョン・ウッドと多くの人々の夢となりました。それから10年がたち、ルーム・トゥ・リードの運動は確かな変化を生み出しています。夢が現実のものとなるまで私たちは歩み続けます。

私たちは、この夢をルーム・トゥ・リードのプログラムに参加し、人生が変わった子どもたちと分かちあっているのです。最近南アフリカを訪問した際に、エリン・ガンジュは、小学3年生の児童たちに「大きくなったら何になりたいですか？」と聞きました。アーネストは学校の校長になることを夢見ています。ビクトリアは警官になりたいと思っています。ブルーノはプロのサッカー選手としても活躍する医者になろうとしています。

子どもたちの夢を実現可能なものにするために、私たちはどうすればよいのでしょうか？まず、設立するすべての図書館・図書室を、色鮮やかで文化的・年齢的にふさわしい内容の現地語図書で満たし、学習環境を整えることです。次に、司書教育を行い、学校と協力して子どもに優しい設備を整えるとともに、教師たちが読み書きを教えるのに役立つ教材を提供することです。最後にとても重要なこととして、親や親戚、地域社会を巻き込んで協力的な学習環境づくりをすることで、子どもたちの成長を促しています。

バングラデシュのボシロン・ベグムさんも、他の親たちと同様に、娘のエイジアに大きな希望を持っています。「ルーム・トゥ・リードの支援のおかげで、エイジアには違う将来があるという望みを持てるようになりました。経済的な余裕がなかったので姉たちを学校にやることはできませんでした。エイジアは父親のように教師になりたいと思っています。教育を受けることができれば、その夢をかなえることができ、よりよい人生を送ることができる」と確信しています」母親の言葉に対して、12歳のエイジアはこう言いました。

「姉や妹たち、そして地域の人々のお手本になりたいのです。自分の夢をつかむために、学校がどれだけ助けになるか、皆に見てもらいたいと思っています」

創設者 兼 共同理事長からの手紙



親愛なる友人の皆さん

私のお気に入りの童話のひとつは、ルーム・トゥ・リードが2006年にスリランカで出版したものです。『ベイベー・フィッシュ、学校に行く (Baby Fish Goes to School)』は、シンプルながら心に訴える物語で、動物の友だちと一緒に学校に通うことを願う幼い金魚の子が主人公です。この金魚は、学校が地上にあるため

に水中で暮らす魚たちは行くことができないという悲しい現実を知ってがっかりします。幸いにも、ベイベー・ラビットに先導された動物の学生たちは、このような魚たちへの不当な扱いを受け入れませんでした。皆でアイデアを出し合い、ベイベー・フィッシュの移動用に金魚鉢を購入することを決めます。仲間に学校へ連れていってもらったベイベー・フィッシュは初めての授業を楽しみます。

このハッピー・エンディングには笑みがこぼれますが、同時にこの話は、教育への障壁を取り払う解決策を打ち出すことの重要性を明確に訴えているのです。私たちの現地スタッフは毎日、行く手に立ちはだかる障壁を、走って、飛んで、泳いで、乗り越え、迂回し、通り抜ける方法を見だしています。ルーム・トゥ・リードは、すべての子どもたちに学びたいという意欲があると信じています。いかなる子どもも「あなたは運悪く、たまたまこの時代に、この場所で、この両親のもとに生まれたから、教育を受けることはできない」と言われることがあってはなりません。

このレポートにあるように、ルーム・トゥ・リードの最初の10年の間に、私たちはたくさんの「金魚鉢」に相当するアイデアを出し合ってきました。

2010年に、この節目となる記念の年を祝って、ルーム・トゥ・リードが教育プログラムを実施している9カ国すべてを訪問できたことは、私個人としてもとても素晴らしい経験でした。ネパールの山々からザンビアの奥地の村、デリーのスラムからバングラデシュの隔地の川島まで、各地を訪れた際に目にしたことは、必要な場所に、必要とされる人材を送り込めていることは、ルーム・トゥ・リードの優れた特徴のひとつであると確信しました。現地チームは、情熱とプロ意識を持って、何百万の子どもたちが、教育のみがもたらすことのできる明るい未来へのチャンスと希望を得られるように、たゆまぬ努力を重ねています。

車や川船、トゥクトゥク（三輪自動車）で移動をする間に、現地チームから、支援者の皆さんについてよく質問されます。「ジョン、バングラデシュの子どもたちのことを、こんなにも考えてくれる人々とは誰なのですか?」と、ある日カントリー・ディレクターのザキ・ハサンが尋ねました。「世界の裕福な地域の人々をどうやって説得して、何千マイルも離れた、とても貧しい国の何の資源もない場所

に住む少女たちのことに関心を持ってもらうのでしょうか?」質問に答えながら、私の顔は輝きました。この10年間に築いてきた支援者の皆さんや募金活動をするチャプターの世界的なネットワークのことを心から誇りに思ったのです。の中には、学校や図書館・図書室を最愛の人のために寄贈してくれた家族もいれば、チャプターのイベントで、読み書き能力の育成と教育における男女の格差は正のためにチャリティー・オークションに参加した人々もいます。また、私たちの活動を自社の社会的責任キャンペーンの一環として位置づけている数々の企業もあり、私は現地チームに何時間でも語ることができます。

資源を持ち、よりよい世界を築くことに意欲的な人々と、そのビジョンの実現に向け同様に献身的な活動続ける現地チームとを結びつけること—これはすべて、ルーム・トゥ・リードの魔法の一部なのです。私が、（謙虚にはありませんが）心から確信しているのは、私たちは地球上で最高レベルのチームを作り上げたということです。このチームのおかげで、次なる10年に、私たちの活動の影響力はさらに大きなものとなるでしょう。

こうした中で、新しく加わったすばらしいパートナー、ティム・クーグルをご紹介できることをとてもうれしく思っています。ヤフー社創設期の最高経営責任者であったティムは、2011年にルーム・トゥ・リード国際理事会の共同理事長に就任しました。ティムとルーム・トゥ・リードの出会いは、実に運命的なもので、すぐに強い絆が生まれました。小さな書店で私の本を見つけたティムは、その直後に彼の奥さんを介して私と知り合うことになったのです。ティムは、長年かけて培った起業家としての優れた能力と、すべての子どもに教育機会を与えるために懸命に取り組む姿勢を併せ持っています。教育によって彼自身が自己実現と成功のチャンスをつかんだように、その同じ機会をすべての子どもたちが得られるようにすると心に誓っているのです。

非識字問題の克服は、とてつもない一大事業であり、世界中の数多くのリーダーたちの力が必要不可欠です。私たちは、世界中の子どもたちが直面する、学習へのさまざまな障壁を引き続き乗り越えていくうえで、必要とされるリーダーを擁していると確信を持って言えます。皆さんの継続的なご支援の下、必要な数だけの「金魚鉢」を確保して、すべてのベイベー・フィッシュが通学できるようにするために、ともに力を合わせていこうではありませんか。

創設者 兼 共同理事長
ジョン・ウッド

共同創設者 兼 最高経営責任者からの手紙



親愛なる友人の皆さん

米国の文化人類学者、マーガレット・ミードはかつて言いました。「思慮深く献身的な一握りの市民が集まれば、世界を変えることができるのです。これを決して疑ってはなりません。実際、唯一こうした人々だけが、世界を変えることができるのです」。ルーム・トゥ・リードの創設10周年にあたる2010年に、1万カ所

目の図書館・図書室の設立と、女子教育支援プログラムへの1万人目の少女の受け入れを祝うことができました。私たちは、開発途上国に住む何百万人もの子どもたちの人生に大きな変化をもたらしているという事実を実感しています。こうした多くの成果は、ルーム・トゥ・リードと、支援者やスタッフ、ボランティア、各国政府、パートナー組織・企業、地域社会から成る世界的なネットワークが協働して生まれたものです。そして、そのネットワークは拡大を続けています。関係者全員が、読み書き能力の育成と教育における男女の格差是正を推進することに尽力しているのです。

昨年、ルーム・トゥ・リードの2010年～2014年グローバル戦略計画がスタートしました。読み書き能力の育成と教育における男女の格差是正に焦点を絞ったことにより、組織全体で大幅な前進がみられ、こうした成果を皆さんにご報告できることに喜びを感じます。このビジョンの中核を成すものが、革新的な識字力向上パイロット（試験的）プログラムの構築と実施で、これは、図書館・図書室設置や、児童書の現地語出版、学校建設といった現行の活動を補完する内容となっています。こうしたパイロットプログラムでは、生徒が適切な教材を利用できるようにするとともに、初級者に向けても十分な訓練を受けた教師から質の高い読書指導が受けられるようにしています。同プログラムを実施中のザンビアの小学1年生のクラスを訪問した際、その担当教師が、この読書スキル指導方法は、これまで試したどの方法よりも効果的だと絶賛していました。ルーム・トゥ・リードが開発したワークブックのおかげで、生徒たちの学習スピードは上がっており、落ちこぼれる子どもが減っているというのです。この教師は「ザンビアのすべての学校で、直ちにこのプログラムを実施できることを願っています」と話してくれました。

女子教育支援プログラムもまた、私たちの新しい戦略ビジョンに沿って実施されています。このプログラムは、少女たちが平等な機会を得て、就学し中等学校まで修了できるようにするとともに、彼女たちが人生における重要な決定を行うために必要なスキルを身に付けられるようにすることを目的としています。私たちは引き続き、女子教育において、どのような取り組みが最大の成果を

上げているかを査定し、学校や地域社会における男女平等の促進といったより広範囲な社会的成果を上げるに至った経緯や理由を見極めていきます。少女たちの人生において、家庭と学校職員が重要な役割を果たすことを踏まえ、私たちはこのプログラムに新しい要素を組み入れ始めました。一例をあげると、地域社会の関与をさらに広範囲にしたり、教室での性差別を減らすために教師に対して意識向上の訓練を行ったということです。

2010年にルーム・トゥ・リードは、同プログラムに参加している少女たちが、ライフスキル・トレーニングとメンター（指南役）による指導をより多く受けられるようにしました。こうした要素はとても重要な役割を果たしており、少女たちが中等学校への通学を続け、大人になっていく重要な移行期に備えています。革新的な要素としては、ライフスキルの能力評価をする枠組みを新たに導入したことです。私たちはこの枠組みを使って、少女たちがどのようにコミュニケーションをとり、問題解決や意思決定、自己形成を行い、論理的かつ構造的に思考する能力を身に付けているかを見極めます。私は昨夏ベトナムでライフスキル・トレーニング・ワークショップに参加し、女子教育支援プログラムのこうした部分が発展しているのを見て心が躍りました。少女たちが新たな自信を得て、将来の目標を話すのを聞きながら、少女たちが集い、絆を深める安全な場所を作ることがいかに有益であるかを感じました。

皆さんにはぜひ少しお時間をとっていただき、このアニュアル・レポートをお読みいただければと思います。ご出資くださったものが、いかに多くの人々の人生に影響を与えてきたかを実感することができます。皆さんのご支援のおかげで、ルーム・トゥ・リードは、次の10年へ躍進する準備はできています。とは言え、私たちには大きな目標があります。それは、1,000万冊目の本を配布し、10番目の国（タンザニア）で支援活動を開始すること、そして私たちのプログラムを通して1,000万人の子どもたちを支援することです。

米国の奴隷制度廃止運動家であったフレデリック・ダグラスは「読み書きができるようになれば、永遠の自由を手にすることができる」と言っています。子どもたちが教育と教育によって得られる自由を追求する中で、彼らが自らの人生を切り開いていけるように支援することほど、私たちが永続的な影響を与えられる方法はありません。この自由とは、子どもが夢中で読書をして心が高まったときに得られるものかもしれないですし、教育を受けた少女が仕事に就き、経済的に自立できるときに得られるものかもしれませんが、いずれにせよ教育の力が人生を変えるということに疑問の余地はありません。ルーム・トゥ・リード一同は、皆さんの寛大なご支援に感謝するとともに、引き続き私どものパートナーとして、さらに多くの子どもたちが質の高い教育、そして自由を得られるように、ご協力をお願い申し上げます。

Erin Ganju

共同創設者 兼 最高経営責任者
エリン・ガンジュ



10力国

10カ国まで、あと少しです。

私たちはネパールで活動を始め、その後はベトナム、次にカンボジア、インド、スリランカ、ラオスへと徐々に拡大してきました。そして新大陸に進出し、南アフリカとザンビアでの活動を開始しました。現在、新たにバングラデシュでも活動していますが、まもなく10カ国目となるタンザニアが加わり、2012年に私たちのプログラムが開始される予定です。

各地の現地事務所では、地元の人々のみを採用しています。そのようにすることで、私たちの教育プログラムと、優れた人材の育成に向けた私たちの取り組みの両方を長期にわたって持続することが可能になるからです。2005年よりルーム・トゥ・リード・ラオスのカントリー・ディレクターを務めるソンペット・ポンパチャンは、プログラムの成功に重要な役割を果たしてきました。彼女の情熱を支えるものは何でしょうか？ 「ルーム・トゥ・リードのミッションが私のミッションでもあるのです。それは、自国の子どもたちが教育を受け人生を変えることができるように助けることです。ルーム・トゥ・リードは、私に働く場と、毎年さらに多くの子どもたちを支援できる場を与えてくれます」

アル・オコナーは、ルーム・トゥ・リードとも協力して貧しい国々に学校建設をしている実業家グループ、『オポチュニティ・フォー・オール（Opportunity for All）』の共同創設者で、2010年にラオスを訪問しました。「ソンペットは、これまで出会った中で最も情熱的な人物のひとりです」と彼は言います。「彼女のエネルギーと献身ぶりは驚くべきものです」。『オポチュニティ・フォー・オール』は2009年の創設以来、ラオスとスリランカに16校を建設する資金を提供してきました。「これまで途上国をいくつも訪れましたが、ラオスでの経験は特別なものでした。私たちが学校を建設した村々で、大人たちと一緒に子どもたちへの夢を語り、またやる気満々の子どもたちが算数の問題に挑戦したり、教師の質問に答えるために勢いよく手をあげたりするのを見ると、やる気がむくむくと湧いてきました。2020年までに600校を建設するという目標に向かって、より一層、力を注ぐ決意をしています」

100
パーセント



数多くの面で100パーセントを目指します …ここで私たちの活動の透明性について お話ししましょう。

私たちの責務は、ルーム・トゥ・リードが最高レベルのプログラムを運営し、子どもたちが最大の恩恵を受けられるようにすることです。では、私たちの活動の成果を測るには、どうすればよいのでしょうか。私たちは、プログラムをモニタリングし、継続的な評価を行うことで、プロジェクトの実績評価や、良い点と悪い点の特定、利害関係者との対話の促進をはかっています。セールスフォース・ドットコム財団のご協力により、データベースには3万件以上の記録が保存され、各プロジェクトの追跡ができるようになっています。

これは膨大な数の報告書と数字ですが、そのひとつひとつの背景にある現場の状況とは、どのようなもののでしょうか？

ルーム・トゥ・リード・スリランカのモニタリング・評価マネージャーであるジャガス・ワサンサは、かつて紛争地域であったトリンコマリーを最近訪問しました。ここは、ルーム・トゥ・リードが130もの図書館・図書室プロジェクトを発足させた場所です。「トリンコマリーでの移動は本当に大変です」と彼は話します。「プロジェクトをいくつか視察するだけでも、日によってはフェリーや車、トゥクトゥク（三輪自動車）を乗り継ぎ、その後さらにオートバイで移動しなくてはなりません。移動は大変ですが、このように学校を訪問して進行状況をモニターし、児童教育に取り組んでいる教師たちに、ルーム・トゥ・リードはいつも傍にいて支援を惜しまないと知ってもらうことは重要なのです」

4,000マイル以上離れた南アフリカでも、マドダ・フロングウェインが同様の任務をこなし、私たちのプロジェクトが順調に進行するように尽力しています。彼は、時には1日6校、1週間で30校をも視察することがあります。「モニタリングは、私たちの活動を成功させるうえで不可欠な役割を果たしています」とマドダは話します。「モニタリングによって、どの部分には成果が出ていて、どこを改善しなければならないかを知る手がかりとなるだけでなく、ここから得られるデータは、組織内外の利害関係者に活動状況を知らせるのに役立っています」

2010年を振り返って



ルーム・トゥ・リードの活動は、最初の10年間で、ネパールのバフンダに最初の図書室を設置したことに始まり、現在ではアジアとアフリカ地域に1万カ所以上の図書館・図書室を設立するまでに拡大しています。

活動の要である教育プログラムの規模を引き続き拡大しており、2010年だけでも1,985カ所の図書館・図書室の設立、314校の新しい学校の建設、120タイトルのオリジナル児童書の出版を成し遂げ、10,594名の少女たちに新たな学習の機会を提供することができました。ルーム・トゥ・リードは10年目の年に、世界各地の985,493人の子どもたちの人生に変化をもたらしたのです。

また2010年には、将来に向けた戦略を練ることに、もさらに時間を費やし、プログラム内容の改善と、プログラムが子どもたちや地域社会全体に及ぼす影響の向上を図りました。具体的には、私たちが最も影響を与えようとしている2つの柱である、読み書き能力の育成と教育における男女格差の是正を促進するために、すべての活動を連携させる取り組みにスタートさせました。これに加えて、新しいイニシアチブの開始や、モニタリングと評価の強化、新地域への進出を通して、全プログラムの能力強化に多くの労力を注ぎ込みました。

各国での主な成果

ネパール

複数の賞を受賞

ネパール図書室基金は1987年以来、図書館の設立と、知識の共有を目的としたインフラの整備において、多大な貢献をした個人や団体に対し、その功績を称えて「サラスワティー賞」を授与してきました。ルーム・トゥ・リード・ネパールは学問の女神サラスワティーの名を冠したこの国際的な賞を、ネパールの国立図書館制度を支える図書館司書団体から2010年4月に授与されました。

また、2010年に現地語出版プログラムを通して出版されたネパール語の本、2タイトルに対し、ネパール児童文学協会（NESCHIL）のネパール・バル・サヒチャ・サマージュから栄誉ある賞が授与されました。ルーム・トゥ・リードの本は2部門で受賞、『ピング・ケルダ』は4～8歳児向け書籍部門で、『ラックスマニヤとバックヘディ』は最優秀イラスト部門でそれぞれ受賞を果たしました。

1万カ所の図書館・図書室

ルーム・トゥ・リードの最初の図書室は、2000年にネパールで設立されました。それから8年後、私たちは再びネパールで、今度は5,000カ所目の図書館・図書室の新設を祝いました。そしてルーム・トゥ・リードは、この5,000カ所目の設立のわずか2年後である2010年4月に、改めて大きな節目を迎えることになりました。タナフン郡のドウレガウダにあるシュリー・ジャナ・カルヤン高等学校で図書館・図書室を開設し、これによりこれまで設立した図書館・図書室の数が公式に合計1万に達したのです。

ベトナム

読書フェスティバル

ルーム・トゥ・リード・ベトナムは、地域社会のより積極的な関与を促すために、ティエンジャン省とホーチミン市で、第3回年次読書フェスティバル・デーを開催しました。終日行われたこの行事には、家族、教師、教育管理者、地元当局が参加し、子どもたちが読み書きを学ぶことの重要性に対する理解を広めました。



また休校期間中にも図書館・図書室を最大限に利用してもらえるように、ルーム・トゥ・リード・ベトナムでは、3つの省で夏季読書プログラムを実施しました。このプログラムの参加校が、図書館・図書室を毎日開館したことで、言葉ゲームや作文コンテストを催すことが可能になりました。ベトナム教育訓練省は、2011年にも引き続き夏季プログラムを実施するよう要請しています。

女子卒業生ネットワーク

ベトナムの女子教育支援プログラムの卒業生は、卒業生ネットワークを構築して、自分たちの経験を共有し後進の指導に当たるための場を設けています。卒業生は、女子生徒を激励することに加えて、職業進路相談や個人指導のセッションに参加し、奨学金や学費ローンについて調査し、申請する手助けをしました。

新しい本の出版

2010年には、新たにベトナム語の本、10タイトルが出版され、ルーム・トゥ・リードの児童書コレクションは増え続けています。このうち、伝統的な民話や遊び、歌を題材にした6タイトルは、対象地域となっている省の教育者からの提言に基づいて執筆を依頼されました。残りの4タイトルは音声学の教本で、既存の国語教科書の補助教材となるよう作成されました。

カンボジア

ラジオでの読書

ルーム・トゥ・リード・カンボジアは2010年末に、学齢児童の読書を促すための新しい手段として、コンボントムにある全国放送のラジオ局98.3MHzで、『子ども向けの読み聞かせ』という番組を開始しました。この1時間番組は、毎週木曜と金曜に放送され、子どもたちを楽しませて関心を持たせると同時に、親や地域社会が一丸となって読書習慣を養うことを目的としています。

図書館の基準を設定するために協働

ルーム・トゥ・リード・カンボジアは、フランスのNPOであるSIPARとシャンティール国際ボランティア会（SVA）とともに、国内全域の学校図書館・図書室を対象に、全国共通の基準を設けるための共同作業に着手しました。教育・青年・スポーツ省で図書関連を担当する各部署の数々の専門家チームによる協力を受けられたことは大変貴重な経験となりました。

国王による表彰

ルーム・トゥ・リードの創設者であるジョン・ウッドは、2010年9月にシエムリアップ省を訪問し、カンボジア王国のモニ・サラフォン・

マハ・セレイ・ワット勲章を受章しました。これはカンボジアにおける教育の発展に向けたその献身的な活動が評価されたもので、私たちは、カンボジア政府からこの荣誉ある勲章の受章者に選ばれたことを大変喜ばしく思います。

インド

政府からの支援と国際的認知

アンドラプラデシュ州教育局は、2010年に、ルーム・トゥ・リード・インドの成果に対して、それと同等の支援を教育局としても行い、これまで私たちの活動の範囲外にあった学校に、図書館・図書室を開設することに合意しました。これによりルーム・トゥ・リードは、マハブーブナガルとクルヌール地域に活動範囲を広げることが可能になりました。さらにアンドラプラデシュ州政府からは、グントゥールとナルゴンダ地域にモデル図書館を設立するよう要請がありました。同政府はこれを見本として今後同様の図書館を設立し普及させていく予定です。デリーでは、3名の教師が図書館・図書室プログラムを各自の学校で積極的に推進し、州政府にもその功績を認められています。

国別のハイライトレポート



国際舞台では、イタリアで開催された2010年ボローニャ国際児童図書展で、私たちのインド語書籍のうち3タイトルが、ナショナル・ブック・トラストによる最終選考に残りました。

パイロット（試験的）プログラムとその準備

インドでは2010年に、国内の図書館・図書室の書籍を学年のレベルに合わせて基準を作るという試験的な取り組みが始まりました。これにより、国内の図書館・図書室で、学年ごとに設定された読書レベルに応じて、図書目録を作成することが可能になります。このパイロットプログラムは、ヒポキアンパス財団の技術的支援を受け、チャッティスガルで実施されています。このほかにも、シマンテックコーポレーションをスポンサーとして、マハラシュトラ州におけるプログラムの実現可能性調査を行いました。同社は、この調査で肯定的な結果を得られたことから、今後3年間にわたり、プログラムの拡大に向けて毎年30万米ドルを拠出することを約束しました。

ラオス

ラオスの教育省は、同国の初等教育をより生徒中心のモデルに移行することを目的に、レベル1の教科書を作成するとともに、活発な授業作りのための教師向け指導書を開発しました。教師たちが新カリキュラムの実施に向け奮闘していましたが、指導書やその他の教材が不足しました。ルーム・トゥ・リードは、同省と協働し、物語本、会話集、フラッシュカード、作文練習帳

を含む補助教材を作成し、教育者向けの継続的な専門能力育成プログラムも開発しました。

本の出版が識字力向上を促進

現地語書籍の出版は、ラオスでのルーム・トゥ・リードの識字力向上に向けた取り組みに即しているだけでなく、その戦略を支えています。現地語出版チームは2010年に、作家やイラストレーター、編集者を対象とした一連のワークショップを開催しました。これは、読書への関心を高め、新しい全国カリキュラムの目標を達成するために、レベル1と2の教科書を新規に作成することを目的としています。ワークショップの結果、初級レベルの読者を対象とした合計25冊の原稿を完成することができました。またこれは、プログラムのチームが共通の目標達成に向け手を携えて協力し合うことで、多くを成し遂げられるという強力な証となりました。

スリランカ

紛争後の活動拡大

数十年続いた内戦の終結に伴い、ルーム・トゥ・リードは2009年に、甚大な被害を被ったスリランカ北部に活動を拡大しました。2010年には政府の要請を受けて、教育省と提携しマンナール地方における教育インフラの復旧支援を行い、42の幼稚園および小学校を新設し、そこに図書館・図書室を設立するなどの活動を行いました。

芸術面からのアプローチ

2010年には、女子教育支援プログラムにおいて生徒たちがライフスキルや人生の教訓を学ぶための手段として、創造的な方法が生まれました。現地語出版プログラムの協力の下、20名の少女たちが物語創作のワークショップに、そしてさらに20名がイラストレーションのワークショップに参加しました。参加者の共同作業による作品は、『ブンチ・アベ・カサ・ポサ』という題名の本として出版されました。

マタレやハットン、モナラガラの地域では、合計80名の少女たちが演劇制作に関わりました。グループに分かれて、少女たちが直面する課題を扱った演劇の脚本を書き、自らそれを演じました。出演者たちは協力しあって、劇の中で交渉したり、問題解決に当たったり、ポジティブな変化を起こすために取り組んでいる姿などを熱演しました。

南アフリカ

新しい地域に新しい本を届ける

2010年に、南アフリカにおける活動地域として新たにリンボポ州を追加しました。現在活動中の4つの州では、100カ所以上の図書館・図書室が新設され、これで南アフリカの図書館・図書室数は合計292となりました。現地語出版プログラムでは、10タイトルが7つの現地語で新たに加わり、私たちの児童書コレクションは増え続けています。このうち2タイトルの執筆と5タイトルの挿絵は、ルーム・トゥ・リード職員から訓練を受けた生徒たちが担当しました。



学校図書館の年間最優秀賞を受賞

ムブマランガ州教育省は、地元の学校図書館の業績を称えるための表彰を行い、同州の遠隔地から300名以上が表彰式に出席しました。審査の対象となった200カ所の図書館・図書室のうち、ルーム・トゥ・リードの2つの図書館である、ケネン小学校（スターリング・ブランズ社の支援）とエシャンゼニ・シヤクフラが、年間最優秀学校図書館賞の栄誉を分かちあいました。

図書館・図書室への支援：草の根から政府まで

2010年には、6校の生徒たちの親たちが、ボランティアとして常勤で図書館・図書室の管理を担当するようになり、これで生徒たちは、就学時間以外にも施設を利用できるようになりました。州政府は、提携校での教師・司書の研修を継続しており、ムブマランガ州だけでも、これまでに100名以上の教師が大学の図書館学コースに入学しました。

ザンビア

ファーストレディーによる読み聞かせ

2010年ザンビア農業・商業展では、ザンビアのファーストレディーが、ルーム・トゥ・リードの展示ブースへの招待を快諾し、友人であるマラウイ共和国のファーストレディーを同伴して訪れました。マラウイのファーストレディーは、子どもたちとその親から成る大勢の聴衆に向かって、『イッサとアニマ』の物語を生き生きと読み聞かせました。

地元と創意工夫して連携

ルーム・トゥ・リードは2010年に、カフエ地域に進出しましたが、これは物流面での課題を伴うものでした。移動距離の長さや複雑な地形により、その運搬費はとても支払えない額であったのです。この問題に対し、ルーム・トゥ・リード・ザンビアは、地域社会の協力を得て、工夫し、解決策を講じました。まず、国際的な食品メーカーであるザンビーフが、物品の第1次出荷分の配達を担当しました。大規模な出荷で多くの支援が必要になった時、ザンビアの陸軍兵士が軍の車両を使って配達を行い、ザンビアの警察と地元のPTAも協力しました。

読み書き能力向上に焦点を当てた、練習帳の試作品

2010年末の2カ月間、ザンビアの識字力向上チームは、子どもたちが現地語で本を読むための練習帳を考案し、その試作品の執筆と挿絵制作に懸命に取り組みました。授業で試験的に使用するために、3,600の練習帳、100の教師指導書、10の研修マニュアルを作成しました。

バングラデシュ

全国の初等教育カリキュラムの見直し

バングラデシュ政府は、全国の初等教育カリキュラムの包括的な見直しに着手すると発表しましたが、この計画は政策の大幅な転換を伴うものでした。この見直しの過程に、初めて非政府組織（NGO）が参加を許されました。

ルーム・トゥ・リード・バングラデシュに対しても、初等教育カリキュラム見直しを推進する委員会に加わるよう、私たちの活動をよく知る詳しい教育担当官から要請がありました。

ベンガル語の書籍

ルーム・トゥ・リード・バングラデシュは今年、現地語出版プログラムを開始し、初級レベルの読者を対象にしたベンガル語の書籍5タイトルを初めて出版しました。識字力向上チームとの協働に加えて、地元の駆け出しの作家やイラストレーターと、すでに世に認められている作家やイラストレーターとを組み合わせ、ベンガル語の本を制作しました。この書籍は、韻を踏む表現や単語の繰り返しなどの手法を用い、読み書き能力の習得に焦点を当てた内容となっています。

ポート・トゥ・リード

女子教育支援プログラムは2009年に、「チャー」地域に進出しました。「チャー」とは、遠隔地域の河川にある島々のことで、ここではモンスーンの豪雨により生徒の身動きが取れなくなるという事態が頻繁に起こります。2010年には、地元チームが私たちのNGOパートナー組織であるSHARPと力を合わせ、解決策を講じました。それがポートで通学の手助けをする「ポート・トゥ・リード」です。101名の少女（2010年の生徒総数の約半数）がこのサービスを利用しており、生徒の欠席はたちどころに激減しました。

プログラムの概要



識字力向上パイロット（試験的）プログラムの拡大

ルーム・トゥ・リードの識字力向上に対する取り組みにおいて、重要な側面のひとつに、子どもたちに読書を指導する役割を果たす教師へのサポートがあります。読書指導に最も効果的な方法を開発するために、識字力向上チームは、各国の地元チームと協働して識字力向上パイロット（試験的）プログラムを発足させました。このプログラムは、各国のカリキュラムを補完すると同時に、現地語の特異性や地元の学習ニーズに対応するという世界的な枠組みに沿った内容となっています。この世界的な枠組みは、ルーム・トゥ・リードが、世界中のほかの識字力向上プログラムで実施された、読書と学習に関する調査に基づいて開発したものです。識字力向上パイロットプログラムは、2010年に5カ国で実施され、2011年にはさらに新たなパイロットプログラムが開始される予定です。

各国チームは、全国、地方、地元レベルで政府機関やその職員と密接に連絡を取り合い、パイロットプログラム戦略に対する政府の支援、教師の専門能力育成、カリキュラムと生徒の評価における課題について、討議を重ねています。たとえばラオスでは、2010年末までに新規プログラムが28校で運営されていますが、このプログラムは、教育省との緊密な協働により、初級レベルの読者に読み書き能力を教えるという、国家政府の政策展開を直接支援することを目的としています。各パイロットプログラムは、授業中に行われる読書指導の取り組みに焦点を当てて

いるため、図書館・図書室設立と児童書の現地語出版というルーム・トゥ・リードの既存の活動と、自然な形で統合することができます。

図書館・図書室設立に向けた政府との提携

私たちの図書館・図書室プログラムのチームは2010年に、現在活動中の9カ国すべてにおいて、政府との提携関係を強化するよう努めました。ルーム・トゥ・リードはこれまで常に、その活動を学校のカリキュラムや現役教師の専門能力育成プログラム、教科書、評価制度に準じたものにすることで、政府の活動を補完する役割を果たしてきました。地元、地方、全国レベルで政府関係者により強力な関係を築くことにより、ルーム・トゥ・リードは、活動内容を政府の優先事項に合わせながら、活動規模の拡大と継続を確かなものにしていきます。

バングラデシュでは、ルーム・トゥ・リードを含む非政府組織（NGO）4団体に対し、全国の初等教育カリキュラムの見直しと再構築に向けて、政府全国委員会に協力するよう要請がありました。南アフリカでは、リンボポとムブマランガにあるルーム・トゥ・リードの図書館・図書室が、国家政府により「フォーカス・スクール（調査対象校）」に指定され、周辺校が図書館・図書室のリソースを授業のアクティビティに効果的に取り入れていくにあたり、そのモデル校としての役割を果たすことになりました。

9カ国のすべての支援国では、小学校

の図書館・図書室における国際的なベストプラクティス（最良の慣行）に基づき、ルーム・トゥ・リードから図書館・図書室に提供される書籍の全冊を読書レベルに応じて分類する取り組みが始まっています。分類することにより、子どもたちは、各自の読書能力に適した本を自分で選び、また就学時間内外に図書館・図書室をひとりでも利用できるようになります。各国ではこの圖書の分類制度を政府の現行政策に連動させる努力を続けています。

相互交流による出版

現地語出版チームは、2010年にルーム・トゥ・リードの識字力向上チームと協働して、識字力向上パイロット（試験的）プログラム用の読書教材の開発に着手しました。現地語出版チームは、ルーム・トゥ・リードの図書館・図書室向けに書籍を出版するとともに、バングラデシュ、カンボジア、ネパール、ラオスでは、政府のカリキュラムの補助教材となる書籍原稿や大型本、指導教材を作成しました。ラオスのワークショップでは、レベル1のカリキュラムに直結した書籍原稿23作品を完成することができました。

この取り組みの持続性を確実なものとするために、私たちの地元チームは、創作ワークショップの推進と、都市部以外の地域に住む作家やイラストレーターの才能発掘に率先して取り組んでいます。



2010年に開かれた私たちのワークショップには、ネパールのタルー族の作家や、シエムリアブとパタンパンのクメール族のアーティスト、スリランカのシンハラ語圏とタミル語圏からの参加者もいました。その全員がさまざまな経歴の持ち主でした。

私たちの学校の追跡調査

2009年に開始されたスクール・ルーム（教室）プログラムの国際比較調査は、2010年に完了しました。この調査は、図書館・図書室と学校が建設されている国において、職員のプログラム運営状況を評価するもので、スクール・ルーム・プログラム職員のほとんどが、その時点でのベストプラクティス（最良の慣行）に基づいてプログラム運営を行っていることが判明し、よい結果を得ることができました。このような調査を実施することにより、各国チームがつながり、戦略を共有しあい、追加支援を必要とする地域に対して助言や指導を行うことが可能になりました。

調査結果では、ルーム・トゥ・リードが今後、記録管理や国際的研修などの事務的機能に一層の資源を費やすことを提言しています。各国チームには、2011年に向けて、これらの提言を実行するための行動計画を策定することが期待されています。

地域社会とライフスキル習得に焦点を当てる少女たち

女子教育支援プログラムでは2010年に、より包括的なアプローチが開発され、今後これを展開していく予定です。このアプローチには、親、学校、地域社会との協力関係の強化と、女子教育に好意的な環境作りが盛り込まれています。今年は、多くの国で、地域社会に手を差し伸べることに重点が置かれました。カンボジアでは、少女たち自らが、国民皆教育の重要性に対する認識を高めるキャンペーンを実施しました。世界的には、ルーム・トゥ・リードの認知度を高める活動に、少女たちの親や保護者の85パーセントが参加しました。

ライフスキル教育は、私たちが今年焦点を当てた分野のひとつです。インドとベトナムで開催されたワークショップでは、今後のライフスキル指導内容を計画していくにあたり、何が最も効果的な方法であるか、それを実現するためにはどうすべきであるかを検討しました。その結果、自意識、意思疎通、意思決定、論理的・建設的思考、ストレスの対処法などの面で、総合的なライフスキル訓練を開発するための、ルーム・トゥ・リード共通の枠組みが誕生しました。こうしたライフスキルは、「私の教育」、「私の権利と保護」、「私の将来」といった、少女たちの生活に直結した領域に結び付いていきます。プログラムに参加する少女たちのライフスキルを養うことは、高等教育や就職、家庭生活など次の段階へと移行していく卒業生の数が増える中で、ますます重要になってきています。2010年に、カンボジアで88名、イ

ンドで19名、ネパールで6名、ベトナムで36名の計149名の女子生徒が、ルーム・トゥ・リードのプログラムを卒業しており、心から誇りに思っています。

進行状況を評価

ルーム・トゥ・リードのモニタリング・評価チームは、2010年に、9カ国で進行中の17,000以上もの独自プロジェクトの評価を実施しました。識字力向上に向けたこれらの取り組みを検討した結果、ルーム・トゥ・リードの図書館・図書室の96パーセントが非常に機能的な図書貸し出し制度と分類制度を確立していることが明らかになり、また司書の98パーセントがルーム・トゥ・リード職員またはその国際的な提携先から、図書館管理の総合研修を受けていることが判明しました。さらに、現地語出版プログラムでは、この一年間で出版数を増やし、110万冊以上の児童向け読み物を出版したこともわかりました。

2010年にはまた、図書館・図書室プログラムの影響と生徒の読書習慣を探ることを目的として、3年間にわたる国際比較調査のための情報収集活動が、引き続き行われました。ザンビア、ネパール、ラオスでは、2年目の情報収集が終了し、南アフリカ、スリランカ、インドでは、1年目の情報収集が終わりました。中間集計結果によると、子どもたちにとって使いやすい図書館・図書室を作り、学校の日常で活用できるようにすることが重要課題であることが示されています。

1,000校の学校



学びの場があるということ。

開発途上国においては、机や照明、本、さらにはトイレさえも、学校に常備されているものではありません。教室が過密状態だったり、校舎が老朽化していたりする状況では、子どもたちは、勉学への意欲を保てないばかりか、読み書きのできる教養のある大人に成長するという目標すら持てなくなります。

ルーム・トゥ・リードが、地域社会と協力しあい、教室や校舎の建設を通して、学びの場の向上に努める理由はまさにここに 있습니다。私たちは、各プロジェクトの恩恵を受けることになる人々が、プロジェクトの過程に参加し、またその成功を共有することで、当事者であるという意識を持ってほしいと考えています。

2010年は、私たちの新しい学校の91パーセントが地域社会の人々の手によって建設され、プロジェクト管理と建設技術の訓練を受けた3,000名以上の人々が参加しました。ネパールのダジンでは、主任教諭のティカ・バハドゥール・アチャリヤが、待望のシュリー・ラクト・バチャラ中等学校の校舎増設を、このように称賛しています。「本プロジェクトの最もすばらしい点は、地域社会が、既存の校舎を拡張する必要性を認識したばかりでなく、その実現にはチームワークが不可欠であることを理解したことです」。ボランティアの人々はネパールの炎天下で、子どもたちが最善の教育を受けられるようにするために、溝を掘り、土台を構築する作業を行いました。

生徒のひとりであるプラ빈は、「とても大きいね」と興奮した様子で完成した校舎の感想を述べました。

「これで、一日中窮屈な思いをせずにすむんだ」と友人のラメシュも言いました。「生徒全員がここで授業を受けられるといいのだけど」



写真は、シュリー・ラクト・バチャラ中学校の元の教室のひとつです。小規模なうえに、日当たりや風通しも悪いものでした。現在、この学校の教室は拡張され、生徒に良好な学習環境を提供しています。（14ページのプラ빈とラメシュの笑顔がこれを裏付けています）



10,000カ所の
図書室・図書館
10,000人
の少女

私たちは、節目を大切にします。

目標を設定することは、ルーム・トゥ・リードのDNAの一部に組み込まれているといってもよく、2010年には、2つの特別な目標を達成することができました。一つ目は、2000年に私たちが最初の図書室を開設した場所の程近くにて、今度は1万カ所目の図書館・図書室のテープカットの式典を催すことができましたことです。そして二つ目は、女子教育支援プログラムに、1万人目の女子生徒を受け入れたことです。

この女子生徒たち全員には、長期的な学業面での支援が約束されています。ルーム・トゥ・リードでは、少女たちが通学を続けられるように経済的に援助するとともに、学業において必須となる、制服や本、自転車、家庭教師、個人指導、ライフスキルトレーニングなども提供しています。2010年には、私たちの生徒の97パーセントが進級を果たし、149名の女子生徒がプログラムを卒業しました。インドでの卒業生のひとりである22歳のヘマは、家族で初めて高校を卒業したばかりでなく、初の大学卒業生となりました。次の目標は、政治学の修士号を取得することです。

ライフスキルトレーニングや進路指導は、女子生徒が卒業後の生活に備えることを支援するという点で、当プログラムにとって不可欠な要素です。ゴールドマン・サックス社の「1万人の女性」イニシアチブの支援により、「教育と起業を通じた女子の権利拡大プログラム」において、インドの400名の少女たちに、起業家精神や進路の選択肢について直接学べる機会を提供しました。参加者のひとりであるプリヤンカは、自分と家庭の経済状況が似た地元の起業家と出会い、衝撃を受けました。「私はこれまで、ビジネスマンは裕福な家庭の出身とばかり思い込んでいました。でも、ワークショップに参加して、世界的に有名な起業家の中には、貧しい家庭の出身で、資金がほとんどない状態で起業した人がいることを知りました」プリヤンカは、興奮を隠しきれません。「今では、家族の助けになるような自営業の可能性について考えるようになりました」

国際的な認知度



ルーム・トゥ・リードのネットワークは2010年に、チャプターとボランティア基盤の一層の拡大に加えて、戦略的パートナーシップ、経営陣の任命、権威ある賞の受賞、マスコミによる報道などを通して、さらなる成長を遂げました。ルーム・トゥ・リードは、こうした取り組みを通して、組織のブランド力と知名度を高めることに成功したばかりでなく、国際的な活動を継続的に発展させることで、次なる10年に世界中のより多く子どもたちに手を差し伸べていくうえで、さらに有利な立場に立つことができたのです。

広がるチャプターと事務所

ルーム・トゥ・リードのボランティア・チャプターのネットワークは、その国際ネットワークに新たに7チャプターを加えて、2010年も拡大を続けました。新しいチャプターが発足した地域は、ノースカロライナ州シャーロット、オハイオ州コロンバス、フロリダ州フォートローダーデール、テキサス州ヒューストン、フランスのパリ、オーストラリアのパース、韓国のソウルです。現在では、世界中に52チャプターを展開中で、1万人以上のボランティアが、ルーム・トゥ・リードのイベントの企画立案や知名度を高める活動に従事し、当組織をサポートしています。これらのチャプターは2010年に、ルーム・トゥ・リードの総収入の35パーセントに当たる、合計1,200万米ドル以上の募金を集めました。

ルーム・トゥ・リードは、チャプターの成長を補完し、またその可能性を最大限に引き出すために、ロンドンと香港以外にも募金活動をする拠点を展開し、オーストラリア、日本、アメリカのニューヨークに事務所を設立しました。私たちは、クレディ・スイスと『ファイナンシャル・タイムズ』紙が寛大にも当組織のすべての募金活動拠点到事務所スペースを提供くださっていることに対して、深く感謝申し上げます。

ルーム・トゥ・リードの世界中のチャプター（拠点）





理事会とマネージメント・チームの強化

ルーム・トゥ・リードは2010年に、当組織の国際的な理事会に新たな役員を迎えました。2010年6月には、ベンチャー投資家かつ起業家で、ヤフー創設期の最高経営責任者でもあったティム・クーグル氏が理事会に加わりました。さらに、パークレイズ・キャピタル社の社長、ジェリー・デルミシエ氏と、フォード財団の国際教育学の教授でハーバード大学国際教育政策のディレクター、フェルナンド・ライマーズ氏の両氏も、2010年1月に役員に就任しました。

当組織のマネージメント・チームを強化するために、2010年には、ルーム・トゥ・リードの最高プログラム責任者として、コリー・ヘイマン博士を迎えました。同博士は、2004年よりルーム・トゥ・リードの顧問役を務め、2008年からは諮問委員会の委員として活躍しています。同博士の最近の活動としては、男女格差是正のための国際開発アカデミーが挙げられます。国際開発・教育分野における同博士の豊富な経験は、私たちのマネージメント・チームにとって新たな財産となるでしょう。これに加えて、IASのディア・ジングラン氏は、プログラム最高責任者およびアジア地域ディレクターの任務を経て、このたびルーム・トゥ・リードの識字力向上最高責任者に就任しました。同氏は、初等教育分野の専

門家として18年以上の経験を持ち、ルーム・トゥ・リードの前には、インドの教育省でディレクターを務めていました。

組織の評価を高く保つ

ルーム・トゥ・リードは、その健全な財務管理が認められ、チャリティー・ナビゲーターの最高評価である4つ星評価を獲得しました。チャリティー・ナビゲーターは、アメリカにおいて最大かつ最も利用されている、慈善活動の独立評価機関です。この栄誉ある評価を5年連続で獲得できたのは特筆すべきことで、これを達成できたのは、評価対象となっている慈善団体のわずか6パーセントに過ぎません。

さらにルーム・トゥ・リードは、『パロンズ』誌の特集で、年間「慈善事業家トップ25」のひとつに2年連続で選出されました。これは、世界の最も緊迫した問題に対して最大の影響力を及ぼしている、社会的認知度の高い慈善事業家を評価・ランク付けするものです。このランク付けは、グローバル・フィランソロピー・グループとの協働で作成されたもので、ルーム・トゥ・リードは、昨年から2ランク上昇し9位の評価を得て、トップ10入りを果たしました。『パロンズ』誌は、「強大な波及効果がある活動や、他の団体との提携により効果の増幅が見られる活動に対して、特に高い評価を与えた」としています。

国際的に取り上げられる

ルーム・トゥ・リードは、2010年を通して国際的な主要メディアに大きく取り上げられました。例えば、ケイティ・コーリック氏がアンカーを務める、米CBS放送の『イブニングニュース』は、当組織のインドの現地語出版プログラムについて報道しました。ルーム・トゥ・リードはまた、『ニューヨーク・タイムズ』紙やBBC放送、『クリスチャン・サイエンス・モニター』紙、TVトーク番組の『チャーリー・ローズ・ショー』にも取り上げられました。さらに、ジョン・ウッドとエリン・ガンジュは多数の有名ウェブサイトへ寄稿しており、フォーブスドットコムや、ビジネスウィークドットコム、ハフィントンポスト、CNBCをはじめとするサイトに意見記事が掲載されました。またルーム・トゥ・リードは、ノキア社とピアソン財団と提携してコンスピラシー・フォー・グッド（CFG）を発足させ、新たなエンターテインメントの実験に乗り出しました。



エミー賞を受賞した「ヒーローズ」のプロデューサー、ティム・クリング氏により製作されたCFGは、試験的なプロジェクトで、観客が実生活で行動を起こし、世界に前向きな変化をもたらすことを可能にした史上初の双方向性ストーリーテリングです。この実験的な取り組みにおいて、ルーム・トゥ・リードが物語に登場し、観客は、その使命や活動の詳細を知ることができました。

ソーシャルメディアを通して認識を高める

ルーム・トゥ・リードはツイッター社と提携し、「国際識字デー」である9月8日に、読み書き能力に対する認識を高めるための独自のソーシャルメディア・キャンペーンを展開しました。ルーム・トゥ・リードとツイッターはこの日、判読不能の「つぶやき」を投稿し、これはその日にツイッターで最もつぶやかれたメッセージとなりました。この判読不能のつぶやきの目的は、読み書きの不自由な世界中の7億9,600万人以上の人々の目に、文章というものがどのように映るかを示すことにありました。ユーザーは、ツイッター社のhope140.orgのウェブサイトを通して、このつぶやきを解読して「読む」体験をしたり、この暗号メッセージを送信したりすることができ、読み書き能力と読書の大切さを広めることに一役買いました。

さらに私たちは、ツイッター初のコーポレート・ソーシャル・イノベーション（企業の社会的革新）のパートナーとして、クラッシュパッド・ワイナリー産のツイッターブランドのワイン、フレッジリング (@fledgling) の発売に参加できたことを喜ばしく思います。このワインは消費者向けに販売中で、シャルドネまたはピノノワールを一本売り上げるたびに、5米ドルがインドのルーム・トゥ・リードのプログラムに寄付されます。

注目を浴びるルーム・トゥ・リードのリーダーたち

ジョン・ウッドは、初の児童書となる、『ヤクのザック、本を運ぶ (Zak the Yak with Books on His Back) 』という本を自己出版しました。韻を踏んだ表現を盛り込み、ネパールの著名な画家であるアビン・シュレサの挿絵の入ったこの本は、ヤク（ウシ科の動物）のザックと、彼の二人の友だちであるマンジュ少女とアルル少年が、ネパールの人里離れた村にヤクの背一杯に積んだ児童書を届ける様子を描いた物語です。ルーム・トゥ・リードの企業パートナーであるリパブリック・オブ・ティー社は、『ヤクのザック、本を運ぶ』の2刷分の出版費を負担し、アトラシアン財団はwww.zaktheyak.orgという専門サイトを立ち上げました。

ルーム・トゥ・リードは、クリントン・グローバル・イニシアチブの2010年

年次会議に再度招かれ、2012年までに、開発途上国の100万人近くの少女たちのために、教育の質を向上させることを約束すると発表しました。ジョン・ウッドは、フィリピンの元大統領グロリア・マカパガル・アロヨ氏や、パークレイズ・キャピタルPLC社の社長、ロバート・E・ダイヤモンド氏、ゴールドマン・サックス社の副社長、ノア・マイヤー氏と並んで壇上に立ち、世界でも特に援助が行き届いていない地域に住む少女たちを対象に、教育機会の平等を目指す、当組織の計画を正式に発表しました。最高経営責任者のエリン・ガンジューも、カリフォルニア州の州務省教育文化局や、カリフォルニア大学バークレー校、ジョンズ・ホプキンス大学のポール・H・ニッツェ高等国際問題研究大学院で講演をしました。

参加をお待ちしています

ツイッター：
www.twitter.com/roomtoread
 (@roomtoread)
 Facebook：
www.facebook.com/roomtoread



100,000冊
の本

これはわずか1週間分の本です

そう、私たちの図書館・図書室を利用する子どもたちは、毎週、10万冊を優に超える本を借りています。つまり、毎年700万冊以上が貸し出されていることになります。その多くは、私たちのプログラムを通じて出版された書籍で、地元の作家やイラストレーター

カンボジアの教師であるリエム・ヌオンも、そのような作家のひとりです。リエムの最初の著書である『犬とココナッツ』は、ルーム・トゥ・リードの作家ワークショップを通して誕生したものです。この本の出版後、リエムは故郷の村に帰り、自分が受けた訓練を生かして、作家志望の生徒が本を書く手助けを率先して行っています。

10歳のキムライは、カンボジアのシエムリアップ郊外の村に住む小学3年生です。キムライは、新しい学校の図書館から、『犬とココナッツ』のような本を借りるのが大好きです。キムライのクラスでの順位は、2年前まで30名中27位でしたが、2010年にルーム・トゥ・リードが学校に図書館を開設してから、この順位に変化がみられるようになりました。「図書館のことを教えてもらったときのことは、今でも覚えているよ。すごくわくわくして、授業に集中できなかった。早く昼休みを知らせる鐘が鳴って、図書館を見に行きたい、と思っていたの」。キムライは、図書館を定期的に訪れるようになり、司書を説得して追加の本を貸し出してもらうようになったほです。

学校の教師たちも、生徒全員に変化がみられると言います。「図書館が開設してから、子どもたちは、休み時間に遊ぶかわりに図書館で本を読むようになりました」と語るのは、3年生を担当するダニィ・ラ先生です。「生徒たちは、受身の姿勢から、積極的な読者になりました」と先生は話します。そして、「その中でもキムライは、抜きん出ています」と付け加えました。キムライのクラスでの順位は今では3位で、毎晩、何冊もの本を自宅に持ち帰っています。

企業・財団スポンサー



ルーム・トゥ・リードの機関スポンサーは、2010年も引き続き、当組織の拡大を支え、その革新的な活動の大半に資金を提供くださいました。大規模な財団から、大手金融機関、最先端のテクノロジー企業、政府補助金に至るまで、世界中のすべての機関スポンサーに対し、ルーム・トゥ・リードは、その寛大なご寄付に感謝申し上げます。皆さまの経済的援助と物品・サービス支援がなければ、私たちがこれまでに収めてきた成功や、アジアとアフリカの数多くの子どもたちに対する継続的な支援は、不可能であったでしょう。



アトラシアン社は、バグ追跡可能な、テクニカル・ライティングおよびソフトウェア開発ツールの作成を専門とする企業で、これらのツールは、21,000以上の団体が、コンセプトから発売に至るまでの製品の開発過程を迅速化するのに役立っています。アトラシアン社のスターター・ライセンスは、ベンチャー企業や小規模チームに対し、継続的なフルサポート付きのソフトウェアを提供しており、わずか10米ドルで10ユーザーが利用できます。収益金は全額ルーム・トゥ・リードにご寄付いただいております。スターター・ライセンスの人気によって、ルーム・トゥ・リードにはこれまでに100万米ドルの募金が集まりました。



パークレイズ・キャピタル社は、3年以上にわたってルーム・トゥ・リードと提携し、カンボジア、インド、ネパール、スリランカ、ベトナム、南アフリカで、図書館・図書室の開設、現地語出版、女子教育を支援くださっています。同社にはまた『ファイナンシャル・タイムズ』紙の2009～2010年季節限定キャンペーンの筆頭スポンサーとしてルーム・トゥ・リードをサポートいただき、合計400万米ドルの募金を集めることができました。



ブルームバーグ社は、2008年よりルーム・トゥ・リードをご支援くださっています。同社の協力の下、ルーム・トゥ・リードは、図書館・図書室と書籍を通して、これまでに5万人以上の子どもたちや教師に援助を差し伸べることができました。また、同社の世界中の従業員が、ルーム・トゥ・リードのプログラムを支援するイベントや活動に参加くださっています。同社は2011年に、アジアの現地語出版プログラムにおけるルーム・トゥ・リードの主要スポンサーとなっており、50万冊近くの児童書やストーリーカードの出版資金



キャタピラー財団は、ルーム・トゥ・リードとの提携の下、この3年間を通じて、1,000名の少女たちに包括的な教育を提供するとともに、1万人以上の子どもたちにより良い教育機会を与えることを目的として、36カ所の図書館・図書室を設立することにご尽力いただきました。



クレディ・スイス社は、2005年より、グローバル・エジュケーション・イニシアチブを通して、ルーム・トゥ・リードをご支援くださっています。同社には、アジアとアフリカで展開する当組織のプログラムを継続的にサポートいただいております。今日までに3万人以上の生徒がその恩恵を受けてきました。2011年には、ルーム・トゥ・リードのアジアでの識字力向上パイロット（試験的）プログラムを中心に支援いただく予定です。経済的援助に加えて、クレディ・スイス社は、香港、ロンドン、東京、シドニーを拠点とするルーム・トゥ・リード職員に無償でオフィススペースをご提供くださっています。



ゴールドマン・サックス社の「1万人の女性」プログラムは、ルーム・トゥ・リードとの提携の下、インドの女子教育支援プログラムに参加する400名の女子高校生の教育を支援しています。またこの「1万人の女性」は、女子教育支援プログラムの中で試験的に行われている、起業家スキル総合訓練の開発サポートも行っています。この助成金は同社の最新のご支援の一例で、ほかにもこれまでに「ゴールドマン・サックス・ギブズ」を通して500万米ドルをご寄付いただき、世界中のルーム・トゥ・リードのプログラムをサポートいただいています。



ラファージ社は、ルーム・トゥ・リードのザンビアでの活動をスポンサーしてくださっています。同社は過去数年にわたって、図書館の建設に必要なセメントの無償提供や、車両の寄贈、ザンビアへの書籍の出荷における物流支援、女子教育支援プログラムへの資金援助など、さまざまな形でルーム・トゥ・リードをご支援くださっています。

主要な企業・財団スポンサー

（2010年1月1日～2010年12月31日）

50万ドル以上のご寄付
アルタ・キャピタル
アトラシアン財団
バークレイズ・キャピタル
ビル&メリンダ・ゲイツ財団
キャタピラー財団
クレディ・スイス
ゴールドマン・サックス
ELMA財団

25万ドル～49万9999ドル

ドバイ・ケア基金
スコール財団

10万ドル～24万9999ドル

アドルフ・H・ランディーン慈善基金
ブックオフ・コーポレーション・リミテッド
ジョン・アンド・フランシス・ベック財団
ジョーンズ・デイ財団
ブラネット・ウィラー財団
プライオリティー・グループ
クインテセンシャリー基金
東京海上日動火災保険株式会社
米国国務省南・中央アジア局

5万ドル～9万9999ドル

アビームコンサルティング株式会社
ベストバイ児童基金
ベター・ワールド・ブックス
ビーオーエル・ドット・コム
CAFオーストラリア
ドッジ・アンド・コックス
ファイナンシャル・タイムズ
ファースト・カルガリー・ファイナンシャル
フォンデーション・セグレ
ノキア・コーポレーション
ピアソン慈善基金
ブルデンシャル・ホールディングス・リミテッド
レッドディア・コミュニティ・ファンデーション
スクイードLLC
シンファシス慈善基金
チャリタブル・ファンデーション
ホーラス・W・ゴールドスミス財団
ウォーバーク・ピンカス財団
チューダー・インベストメント・コーポレーション

物品・サービスの主要な寄贈者

ベリー・ブラザーズ&ラッド
ブラザーズ・ブラザー財団
クレディ・スイス
ファイナンシャル・タイムズ（ピアソン）
KPMG
ラファージ
モリソン・フォースターLLP
セーバー財団
セールスフォース・ドットコム
スカラスティック・インク
スモール・ラグジュアリー・ホテルズ

決算報告書

ルーム・トゥ・リードは、当組織の財務状況について、出資者の皆さまに対して透明性を保つことに大きな誇りを持っており、その優れた財務責任能力と健全な経営は、これまで毎年評価されています。実際にルーム・トゥ・リードは、その健全な財務管理が認められ、チャリティー・ナビゲーターの最高評価である4つ星評価を5年連続で獲得しています。またルーム・トゥ・リードは、意欲的なプログラム目標と運営の効率性のバランスを慎重に保つための努力を怠ることはありません。このバランスを実現するために、さまざまなセクターや地域において資金調達の基盤の多様化を図ると同時に、管理費を低く抑えることで、出資者の皆さまの資金ができる限りプログラム費用に充てられるよう努めています。

ハイライト

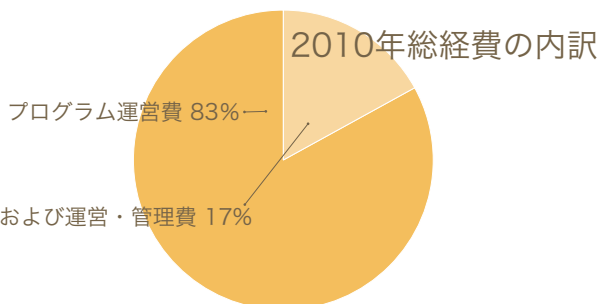
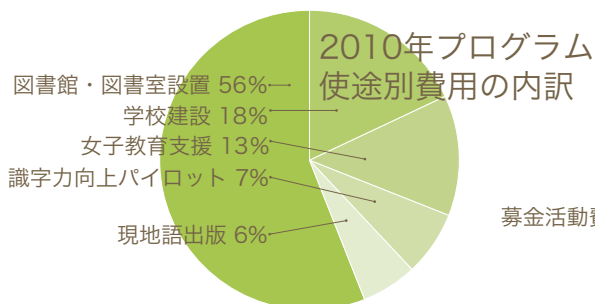
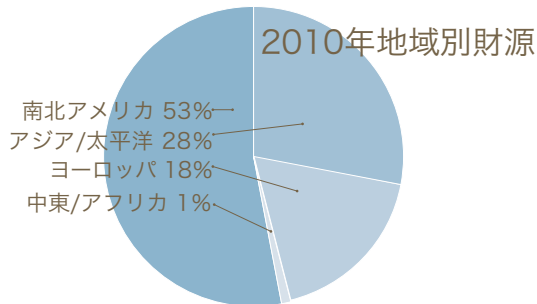
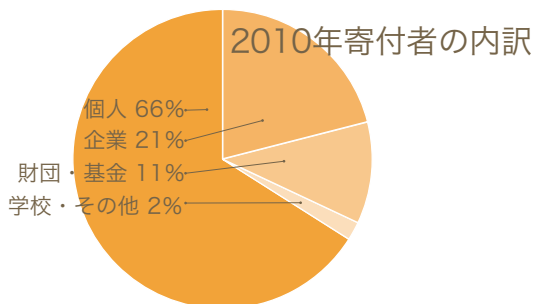
ルーム・トゥ・リードはこの10年間で、3,000万米ドルを超える規模の組織へと成長しました。2010年の財務報告の概要は以下の通りです。

・収益の順調な伸びを記録。現金での寄付は3,380万米ドルで、前年合計2,830万米ドルから20%増。また、主に出版社からの児童書の寄贈による物品・サービス支援の寄付額は510万米ドルで、前年合計460万米ドルから12%増。

・米国外の海外の募金活動拠点を通して集めた募金額は、1,760万米ドル。前年合計1,310万米ドルから33%増。

・ルーム・トゥ・リードのプログラムへの投資額は、3,180万米ドル。前年合計2,350万米ドルから35%増。

・プログラム費用が総支出に占める割合は83%。経費に充当されたのは、1ドルの支出のうちわずか17セント。



活動報告書

2010年12月期および2009年12月期（米ドル）

支援および収益	2010年	2009年
企業	\$7,220,068	\$4,192,452
財団・基金	\$3,732,244	\$5,409,025
個人	\$22,353,93	\$18,302,598
学校およびその他	\$519,871	\$351,508
寄付合計	\$33,826,11	\$28,255,583
物品・サービス	\$5,123,969	\$4,557,956
投資収益	\$589,031	\$239,651
その他収入	\$(115,669)	\$59,374
支援および収益合計	\$39,423,449	\$33,112,564
運営経費	2010	2009
プログラム運営		
図書館・図書室	\$8,076,865	\$5,612,707
寄贈図書・物品	\$4,736,251	\$4,347,079
学校建設	\$3,812,170	\$3,460,638
女子教育支援	\$1,830,725	\$1,278,447
現地語出版	\$1,115,184	\$679,326
識字力向上パイロット	\$858,456	-
会議費・旅費	\$1,590,428	\$1,083,025
情報技術	\$812,099	\$526,810
モニタリング・評価	\$451,607	\$145,214
専門家報酬	\$665,779	\$395,536
プログラム経費	\$1,241,148	\$987,215
プログラム人件費	\$6,610,663	\$5,022,968
プログラム運営費合計	\$31,801,375	\$23,538,965
運営・管理費	\$2,243,153	\$1,824,427
募金活動	\$4,456,540	\$3,038,851
運営経費合計	\$38,501,068	\$28,402,243
翻訳調整	\$326,437	\$327,423
非拘束純資産の変動	\$(2,980,776)	\$1,326,707
一時拘束純資産の変動	\$4,229,594	\$3,711,037
期首非拘束純資産	\$8,300,764	\$6,974,057
期首一時拘束純資産	\$11,472,809	\$7,761,772
期末純資産	\$21,022,391	\$19,773,573

1,000,000
時間



これは、ボランティアが 当組織のために費やした時間です。

この数字は推定ではありますが、ニューヨーク、香港、シドニー、チューリッヒ、ムンバイを含む52チャプターで、1万人のボランティアが活動すれば、時間はあっという間に蓄積されていきます。

ロンドン在住のサラ・ダイソンは、2004年にロンドン・チャプターの発足からの初期メンバーのひとりです。サラはそれ以来、献身的なボランティアとして、催し物の企画や、女子教育支援プログラムの募金活動を目的とした女性ネットワークの構築などの活動に従事しています。

サラの意欲をかきたて続けるのは何でしょうか。「私は、チャプター主催の旅行で、ベトナムとインドの両国でルーム・トゥ・リードのプロジェクトを視察する機会に恵まれ、かけがえのない体験をしました」とサラは話します。「一番の思い出は、ベトナムで自転車に乗った少女たちに話しかけられて、私の名前と出身地を教科書に書くように頼まれた時のことです。その後再び少女たちを学校で見かけたのですが、彼女たちは一緒に集まって、『イングランド出身のサラ』と発声して英語を練習していたのです。少女たちの勉学への意欲に刺激を受けました」

デービッド・レイは、日本在住の外国人として、2006年に東京のチャプターを共同創設者として立ち上げました。デービッドは、2008年から2009年にかけてチャプターのリーダー役を務める中で、ボランティア数が急増するのを目の当たりにしました。

「起業家精神にあふれた環境の中で、人々はボランティアの機会を求めていたのです」と説明します。「私たちのチャプターは、その求めに応じることができました」。ルーム・トゥ・リード・ジャパンのボランティア数は、現在1,000名を超え、全チャプターの中で最大となっています。東京で始まった活動をきっかけに、日本国内や世界を飛び回るボランティアたちによって、さらに新しいチャプターが誕生しています。デービッドも最近、オレゴン州ポートランドに移住し、地元のチャプターの再活性化に貢献しました。「ルーム・トゥ・リードは、どこに住んでいようと、生涯をかけて取り組む活動だと思います」と彼は話しています。

理事会役員、諮問委員および職員



理事会役員

ジョン・ウッド（共同理事長）、
ルーム・トゥ・リード創設者

ティム・クーグル（共同理事長）、
ヤフー、元最高経営責任者

クリストファー・S・ビア、アイア
ンマーク・ロー・グループ、創設
メンバー

クレイグ・ブルイエ、マイクロソ
フト・ビジネス・ソリューション
ズ、元最高財務責任者

ジェリー・デルミシエ、パークレ
イズ・キャピタル、共同最高経営
責任者、およびコーポレート&イ
ンベストメント・バンキング、共
同最高経営責任者

スコット・キャブニック、ハイブ
リッジ・キャピタル・マネーজে
メント、マネージング・パートナー

キム・アンスタット・モートン、
10x10およびサンフランシスコ・
エッジウッド・アーツ、諮問委員
フェルナンド・ライマーズ博士、
ハーバード大学教育学大学院、国
際教育政策ディレクター

ジョン・リディング、ファイナン
シャル・タイムズ、最高経営責任
者

ヒラリー・バレンタイン、ブラッ
ク&ホワイト・デザイン、パート
ナー

アドバイザリー・ボード （グローバル）

ジョン・ボサムリー、フォー・エ
ーカー・トラスト、創設者兼理事
アーネスト・チョウ、センサトキ
ャピタル・マネージメント、パー
トナー兼創設者

ルイス・クラウチ博士、グローバ
ル・グッド・プラクティス、チー
ム・コーディネーター、万人のた
めの教育（EFA）のファスト・ト
ラック・イニシアティブ、事務局
員

ロブ・フラハティー、ケッチャム
・インク、社長兼シニア・パート
ナー

アディ・ラウディアディス、ゴー
ルドマン・サックス、パートナー
メリッサ・J・マー、アジア・オル
タナティブ・マネージメント
LLC、共同創設者兼マネージング
・パートナー

パット・マクドウェル、クラウド
・ナイン財団、創設者兼理事長
アルル・メネセス、マイクロソフ
トリサーチ、プリンシパル・ソフ
トウェア・アーキテクト

シャーリー・ミスケ博士、ミスケ
・ウィット&アソシエイツ・イン
ク、社長兼シニア・コンサルタン
ト

デービッド・モンク、NERAエコ
ノミック・コンサルティング、副
社長

キャレン・マンディ博士、トロント
大学、准教授兼カナダ・リサー
チ・チェア

ステイジア・オブレムスキー、ポジ
ット・サイエンス、最高財務責任者
カピタ・N・ラムダス、スタンフォ
ード大学、客員研究員、グローバル
ファンド・フォー・ウーマン、元
CEO

M・R・ランガスワミ、サンド・ヒ
ル・グループLLC、共同創設者
キャロル・クヌース・サコイアン博
士、スカラスティック・インターナ
ショナル、インターナショナル・ビ
ジネス・ディベロップメント、副社
長

ティム・ウッド、グラミン財団、モ
バイル・ヘルス・イノベーション、
ディレクター

メロディー・ザバラ、アジア財団、
ブックス・フォーアジア、ディレク
ター

スティーブ・W・ジーママン、マー
シー・コー、最高財務責任者

アドバイザリー・ボード （英国）

ベラ・ベルンズ、フィランソロピー
・アドバイザ

ジェリー・デルミシエ、パークレ
イズ・キャピタル、共同最高責任者、
コーポレート&インベストメント・
バンキング、共同最高責任者

マリサ・ドリュー、クレディ・スイ
ス、インベストメント・バンキング
部門、マネージング・ディレクター
シンドー・ホーダー

アディ・ラウディアディス、ゴー
ルドマン・サックス、パートナー
ペニー・ラベル、ロスチャイルド、
プライベート・バンキング&トラ
スト・ビジネス、クライアント・ディ
レクター

スコット・ミード、リッチモンド・
パーク・パートナーズ、創設パート
ナー

ジョン・リディング、ファイナンシ
ャル・タイムズ、最高経営責任者
アマンダ・ロス、カクタスTV、共同
マネージング・ディレクター

セリーナ・スキップウィズ、ザ・フ
レミング・コレクション、キーパー
・オブ・アート

トルダ・スプリュート、コールマン
・ゲッティ、アソシエイト・ディ
レクター



デベロップメント・ボード (アジア太平洋地域)

ララ・アバシ

オサマ・S・アバシ、クレディ・スイス、アジア太平洋地域最高経営責任者

ディナ・クレイノ・アリレザ、INVUメディア、創設者および最高経営責任者

ユースフ・アリレザ、ゴールドマン・サックス、アジア地域共同社長（元日本）およびアジア地域証券部門責任者

L・ブルックス・エントウィッスル、ゴールドマン・サックス（インド）・セキュリティーズ・プライベート・リミテッド、マネージング・ディレクターおよび共同最高経営責任者

ローラ・マークス・エントウィッスル、アメリカン・スクール・オブ・ボンベイ、理事会会長

ウェンディ・レオン

タミコ・M・リビット

カレン・モリス

ロバート・モリス、パークレイズPLC、アジア太平洋地域会長および最高経営責任者

グラハム・ポーター、タイガー・グループ・インベストメンツ、会長
タマラ・バルガ

ゾルタン・バルガ、オクジフ・キャピタル・マネージメント・グループ、エグゼクティブ・マネージング・ディレクターおよびアジア地域投資責任者

カオリ・ゼージ

レイ・ゼージ、ヌーンデイ・アセツ

ト・マネージメント・アジア・プライベート・リミテッド、マネージング・ディレクター、最高経営責任者、およびポートフォリオ・マネージャー

マネジメント・チーム

ジョン・ウッド、創設者 兼 共同理事長

エリン・ガンジュ、共同創設者 兼 最高経営責任者

ジョアン・チュウ、最高財務責任者
ジェイソン・モリス、最高開発責任者代理

コリー・ヘイマン博士、最高プログラム責任者

ディア・ジングラン、最高プログラム責任者、識字力向上担当

ピエール・タウンズ、最高人材活用責任者

カントリー・ディレクター

ジョン・ボーリュー、アジア地域担当ディレクター

ワイズマン・ングワタ、アフリカ地域担当ディレクター

スニシャ・アフジャ、インド担当ディレクター

サマンサ・チューラ、ザンビア担当ディレクター

ザキ・ハッサン、バングラデシュ担当ディレクター

カル・カン、カンボジア担当ディレクター

ティエン・フォン・レー、ベトナム担当ディレクター

クリストファー・モスピ、南アフリカ担当ディレクター

ソンベット・ボンパチャン、ラオス担当ディレクター

チャンドラ・ラナウィックラマ、スリランカ担当ディレクター

プシュカ・シュレスタ、ネパール担当ディレクター

写真提供。表紙、ページ18：エジュケーター・ガールズ・チェンジ・ザ・ワールド、10x10act.org。表紙内側、ページ10：サイカット・マジュンダール/DRIK。ファイナンシャル・タイムズ、チャーリー・ビビー。ページ4：ピーター・スタッキングス。ページ6：キム・アンスタット・モートン。ページ8、30：フォト・フィランソロピー代表、リズ・ヘイル。ページ9、21、24、29、33：イアン・マーフィ。ページ11：ファイナンシャル・タイムズ、ベン・スタンサル。ページ12：レー・キム・アン・ニエン。ページ13：フォト・フィランソロピー代表、ナンシー・ファレーゼ。ページ14：リシ・アマティア。ページ16：デーナ・スマイリー。ページ20：サンクラ・シャンカルダー。ページ22：ボリン・スレイ。ページ28：K・V・シバナグ。デザイン：メラニー・ドハーティー・デザイン。

それは夢とともに始まり、成功に向かって進んでいくためのビジョンとなりました。

次なる10年に向けて歩み出す中で、ルーム・トゥ・リードは、2015年までに1,000万人の子どもたちに援助を差し伸べるという目標に取り組んでいきます。私たちは、この目標をどのように達成すればよいのでしょうか？

その答えは「着実かつ賢明な成長にあります」と語るのは、ヤフー創設期の最高経営責任者で、2011年現在ルーム・トゥ・リードの理事会で共同理事を務める、ティム・クーグルです。「若くて変化の速い組織と協力し、私が長年かけて培った経験を生かして、今後の成長の方法を模索していくことに大きなやりがいを感じています。ルーム・トゥ・リードは、すでに驚くべき業績を上げています。しかし皆さんもご存じのように、読み書き能力の習得と男女平等の実現を阻む障害を取り払っていくうえで、途上国はまだまだ助けを必要としているのです。これは、私たちがこうした分野で良い変化をもたらすことができるすばらしい機会なのです。そして、私たちが適切な速度で質の高い成長を遂げることによって、その変化を実現させることができます。私たちが正しく実行することで、世界をより良い場所に変えていくことができると保証します」

ルーム・トゥ・リードはすでに、識字力向上パイロット（試験的）プログラムを通して、当組織の新しい戦略的目標が、現実のものになりつつあることを目の当たりにしています。これらのプログラムが拡大するにつれて、地域社会全体にその恩恵が広がっていくことになるでしょう。

すでにその恩恵を実感したのが、ザンビアに住む小学1年生のリチャードとその祖母であるモーリーンです。ルーム・トゥ・リードは、2010年より、現地語のシンヤンジャ語による識字力向上パイロットプログラムを実施し始めました。このプログラムには生徒のアクティビティー・ワークブックの作成や教員研修の実施などが盛り込まれています。リチャードは宿題をみてほしいと祖母に手助けを求めましたが、彼女は一度もシンヤンジャ語の読み方を教わったことがありませんでした。そこでモーリーンは、シンヤンジャ語を学ぶ良い機会ととらえ、リチャードと一緒に通学することにしました。「リチャードは私の誇りです」とモーリーンは話します。リチャードも、祖母と同じ教室で学べることを喜んでいます。「勉強が楽しくなるし、宿題も楽になったよ！」

10,000,000人 の子どもたち



ルーム・トゥ・リードは、「子どもの教育 が世界を変える」ことを信じています。

ルーム・トゥ・リードは、読み書き能力の育成と、教育における男女の格差是正に焦点を当て、開発途上国の何百万もの子どもたちの人生に変化をもたらすことを目指しています。私たちは、地域社会、パートナー組織、政府と協働して、小学生の子どもたちが読み書きを学び読書習慣を養う手助けをするとともに、女子生徒が、学校とその後の人生で成功するのに必要なライフスキルを身につけて、中等教育を修了できるよう支援しています。



Room to Read®

www.roomtoread.org

グローバル・オフィス
ルーム・トゥ・リード
111 Sutter Street, 16th Floor
San Francisco, CA 94104
United States
+1 415 561 3331

アメリカ合衆国
ルーム・トゥ・リード
1330 Avenue of the Americas
10th Floor
New York, NY 10019
United States

ヨーロッパ
ルーム・トゥ・リード
One Cabot Square
London
E14 4QJ
United Kingdom

アジア太平洋
ルーム・トゥ・リード
Level 29, 1 Macquarie Place
Gateway Building
Sydney NSW 2000
Australia

ルーム・トゥ・リード
(香港)
22/F International Commerce
Centre
One Austin Road West
Kowloon
Hong Kong

ルーム・トゥ・リード
(インド)
E 18A, East of Kailash
New Delhi, 110 065
India

ルーム・トゥ・リード
(日本)
〒106-6024
東京都港区六本木1-6-1
泉ガーデンタワー26階

ロンドン、香港、シドニー、東京でのオフィススペースは、クレディ・スイスのご厚意により提供いただいています。また、ニューヨークでの事務所スペースは、『ファイナンシャル・タイムズ』紙のご厚意により提供いただいております。ルーム・トゥ・リードは、クレディ・スイスと『ファイナンシャル・タイムズ』紙に対し、深く感謝の意を表します。